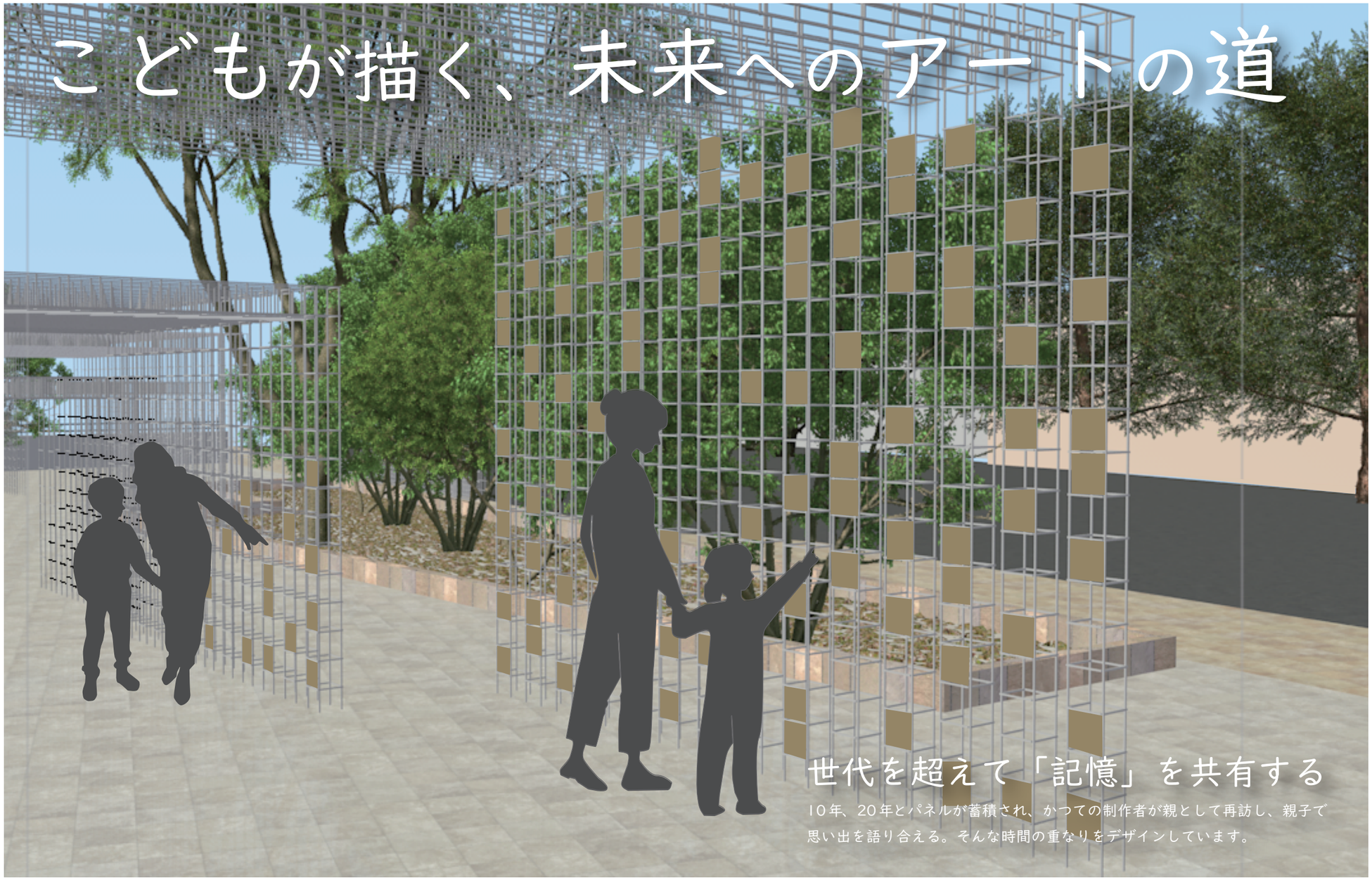
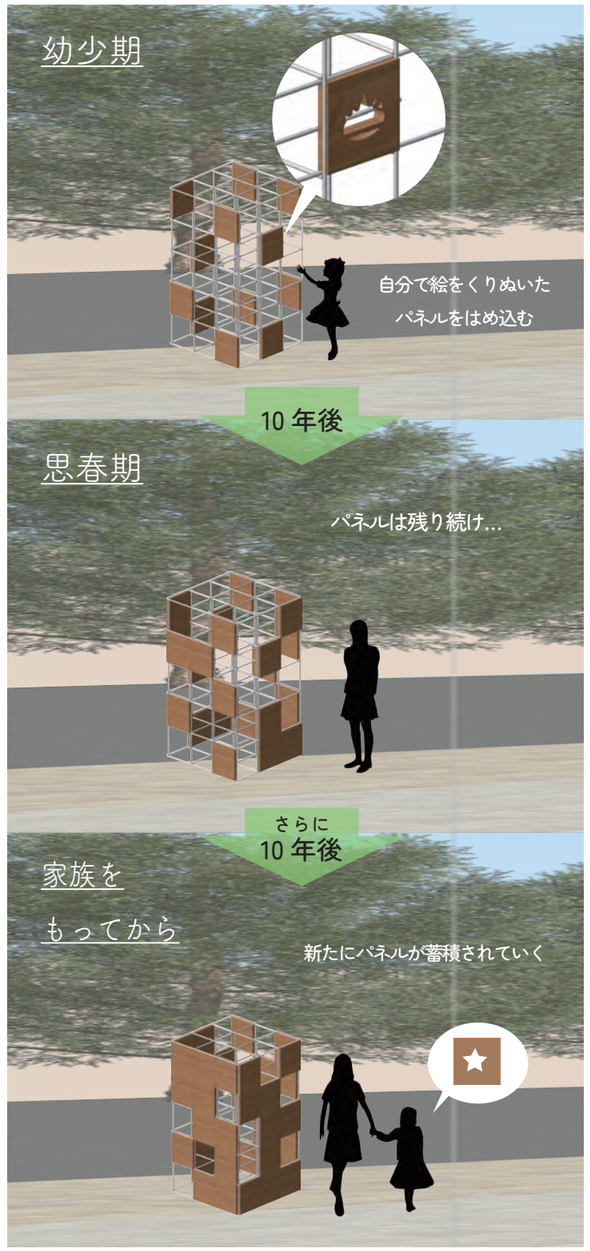
こどもが描く、未来へのアートの道



世代を超えて「記憶」を共有する

10年、20年とパネルが蓄積され、かつての制作者が親として再訪し、親子で思い出を語り合える。そんな時間の重なりをデザインしています。

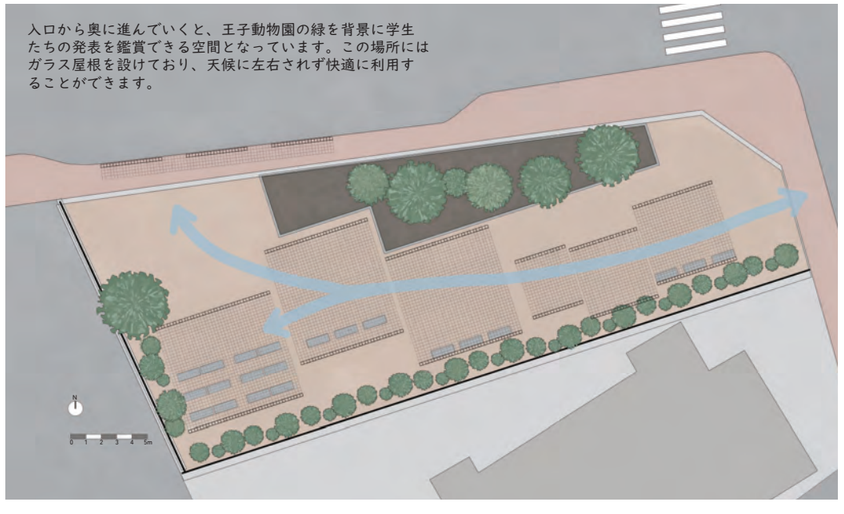


交差点からパークレットを見る。奥に進むにつれて高さも幅も少しずつ小さくなるように計画しています。その変化によって、吸い込まれるように内部へと導かれる建築となっています。視界に入りやすい場所にはベンチを設置し、誰でも気軽に立ち寄れるようにしました。

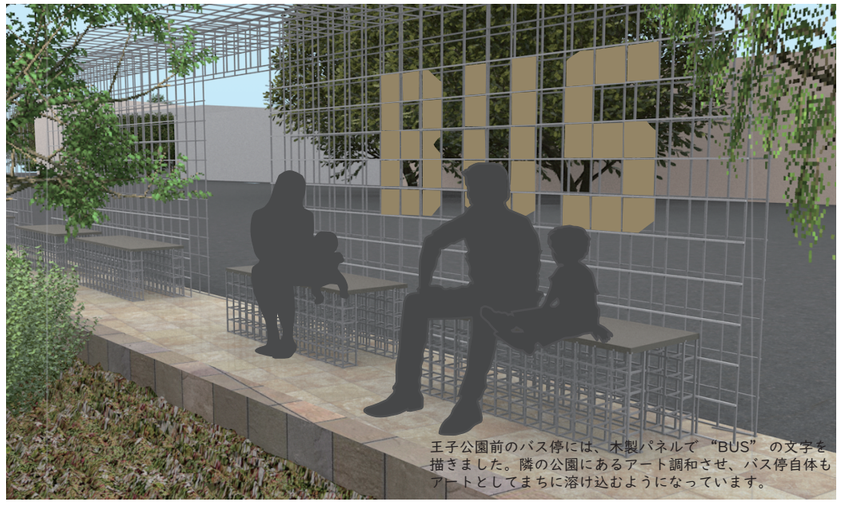
Aエリア 王子町公園

アートが見守る知の拠点

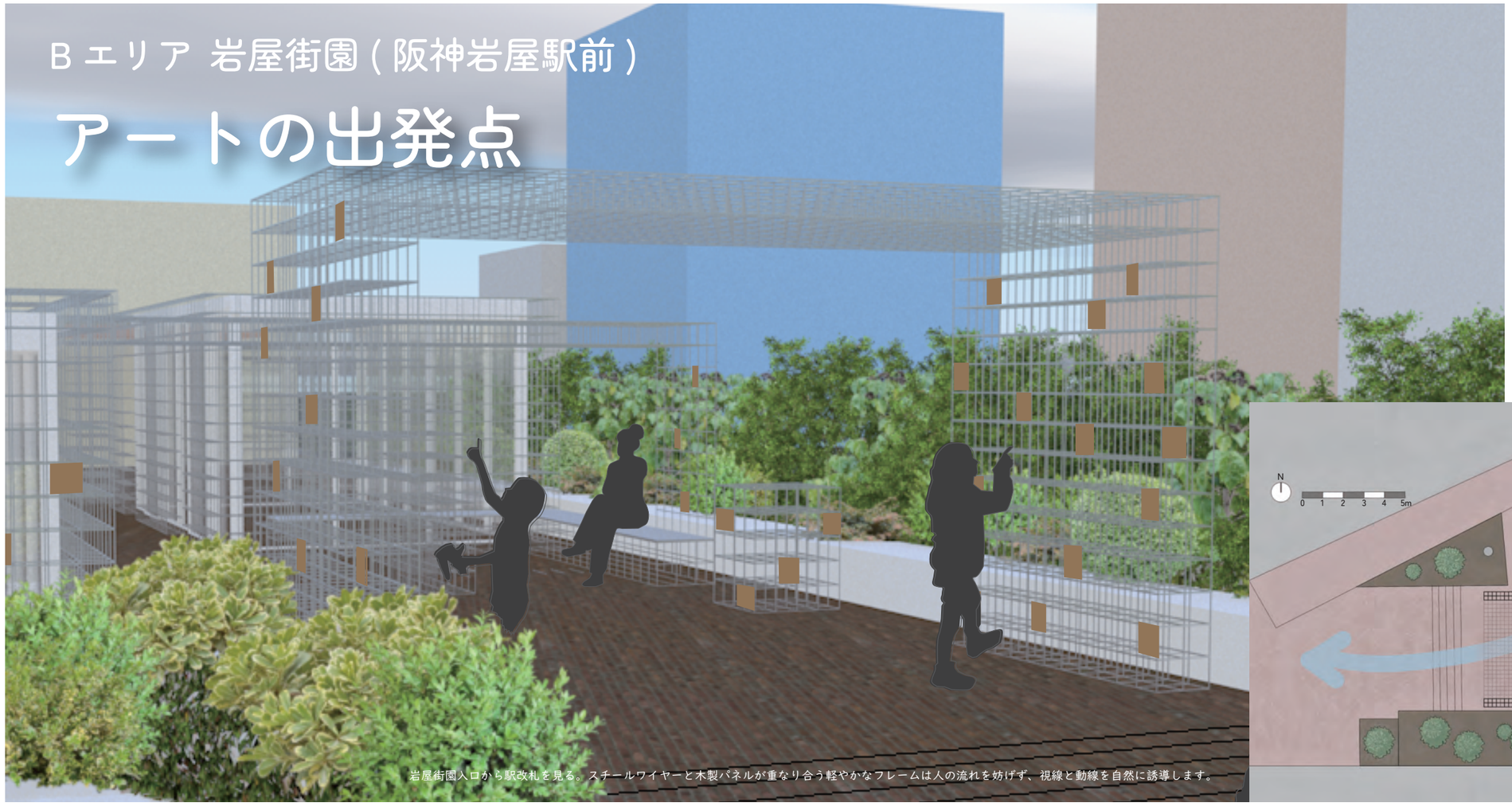
ミュージアムロードの頂上に位置し、王子動物園の出入口やバス停にも近いこの敷地には、パークレットと学生の発表の場を設けます。今後、王子公園には関西学院大学の新キャンパスの開設が予定されています。まちに開かれた学外発表会や展示イベントを行えるような場を設けることで、動物園に訪れる人やバス利用者だけでなく、地域学生にとっても身近な空間となることを目的とします。木陰やスチールワイヤーの影でひと休みできる場、そして学びを共有できる新たな知の拠点を計画します。



入口から奥に進んでいくと、王子動物園の緑を背景に学生たちの発表を鑑賞できる空間となっています。この場所にはガラス屋根を設けており、天候に左右されず快適に利用することができます。

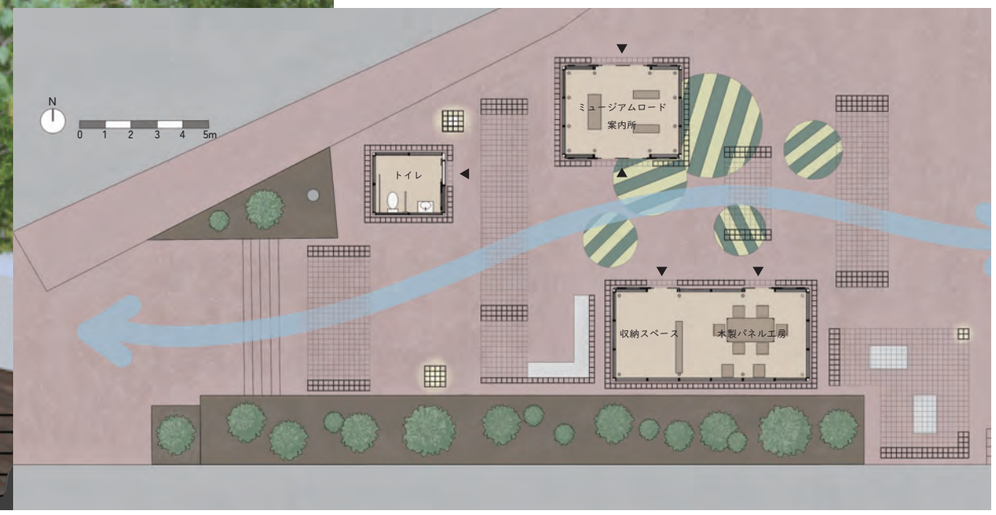


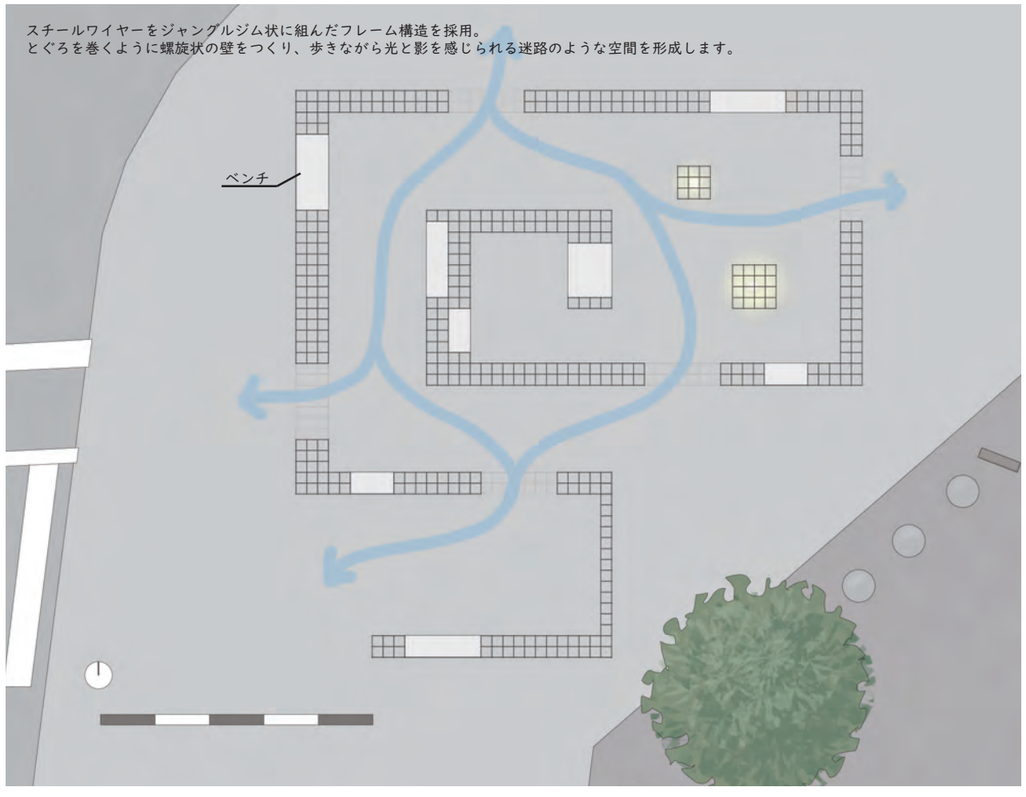
王子公園前のバス停には、木製パネルで“BUS”の文字を描きました。隣の公園にあるアート調和させ、バス停自体もアートとしてまちに溶け込むようになっています。

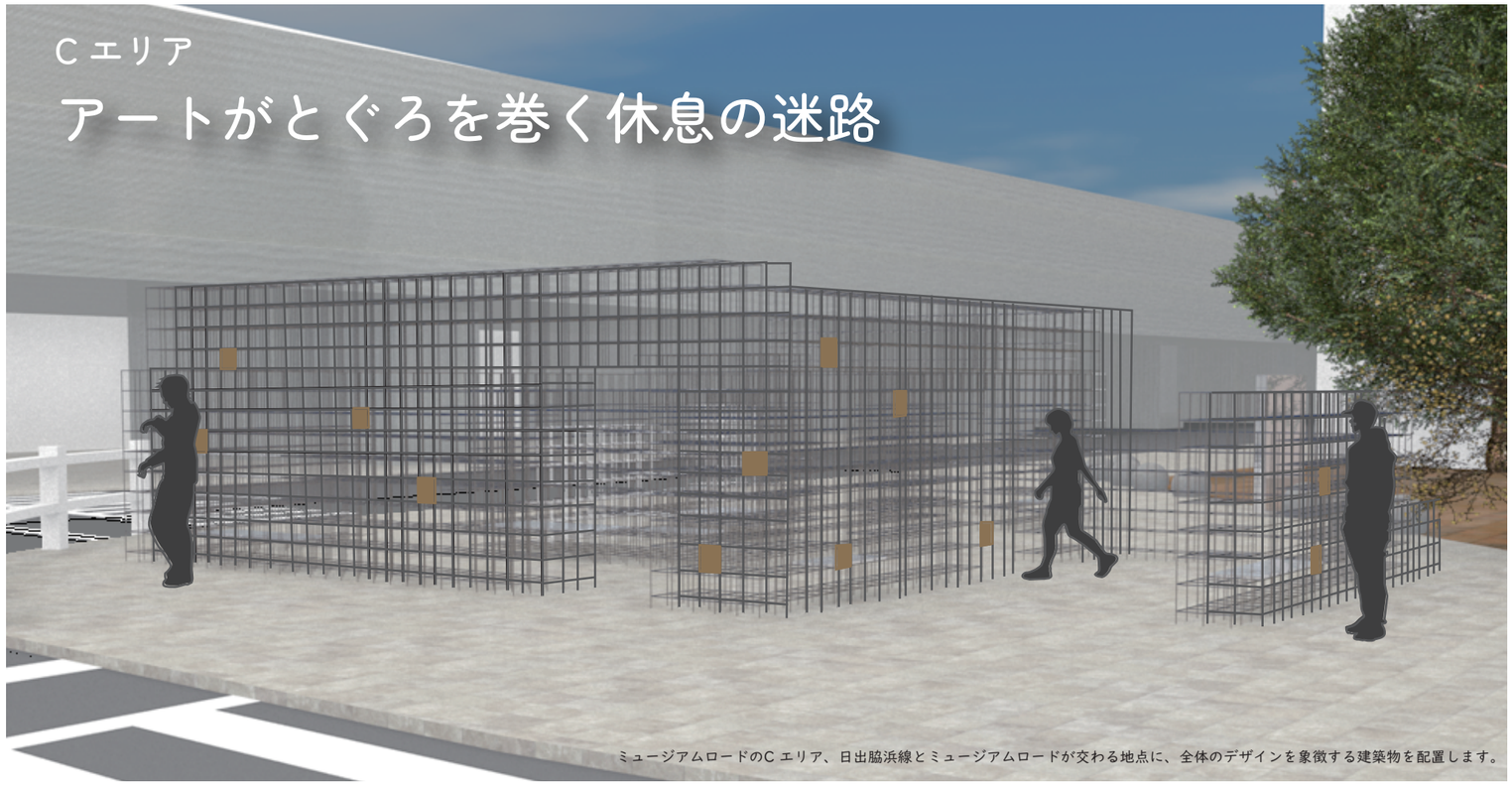


岩屋街園入口から駅改札を見る。スチールワイヤーと木製パネルが重なり合う軽やかなフレームは人の流れを妨げず、視線と動線を自然に誘導します。

改札出てすぐ目に入るスチールワイヤーと木製パネルが印象的な駅前空間には、ミュージアムロード案内所・公衆トイレ・木製パネル工房を計画します。
案内所ではミュージアムロードの紹介や周辺施設のチケット・パンフレットの販売を行い、隣接する工房では訪れた人がパネル制作を体験できる場を提供します。
時間の経過とともに壁に纏うパネルが増加し、地域住民や来訪者の手によって育まれる駅前空間を目指します。







ミュージアムロードのC エリア、日出脇浜線とミュージアムロードが交わる地点に、全体のデザインを象徴する建築物を配置します。